

今年も前年を上回る猛暑日の連続でした。8月にはセミの鳴き声が大きく響きました。9月上旬になって、ようやく下火になりました。朝の路上に蝉の死骸が転がっています。茶色のアブラゼミは二度ほど。透き通った色のセミが六度くらいでしょうか。少年時代、セミと言えばアブラゼミでした。環境の変化に伴い、セミの勢力範囲にも変化が生じているようです。

夏期講習会があり、熊本へ行きました。至る所で耳にしたのはクマゼミの大きな声。体もクマゼミより大きいと言います。シャー・シャー・シャーとなきます。その後10年超経過して大阪に赴任。庭の木々にはクマゼミがやってきました。アブラゼミは駆逐された、と聞きました。マスクにも季節があるのかな。毎朝のように数枚見つけます。夕べには、秋の虫の声が聞こえてきました。それでも、まだまだ秋にはならないようです。

鳴き声や鳴く時間帯は種類によって異なるため、種類を判別するうえで有効な手がかりとなります。たとえば日本産セミ類ではニイニイゼミは一日中、クマゼミとミンミンゼミは午前中、アブラゼミとツクツクボウシは午後、ヒグラシは朝夕、などと鳴く時間が大別されます。ニイニイゼミとアブラゼミ、ツクツクボウシ、クマゼミ、ミンミンゼミ、エゾゼミは生息密度が高い時期や、街灯などが明るいときでも鳴くことがあります。

オス成虫の腹腔内には音を出す発音筋と発音膜、音を大きくする共鳴室、腹弁などの発音器官が発達し、鳴いてメスを呼ぶ。発音筋は秒間2万回振動して発音を実現するとされます。また、外敵に捕獲されたときにも鳴くようです。

「空蝉（うつせみ）」はセミの抜け殻の古語。また、セミの抜け殻を蛻（もぬけ）と呼ぶこともあります。現在この言葉は、『蛻の殻』という慣用句として用いることが殆どです。